

しば
さき
光子

Mitsuko Shibasaki



Wataru Inoue

井上
わたる

「誰もが輝ける和光市をつくる」ことを目指して活動をスタート

井上 / しばさきさんのプロフィールを簡単にお伺いしてよろしいでしょうか?

しばさき / はい。私は和光市生まれ、和光市育ちの現在46歳です。農業を営む両親と2人の妹、祖母との6人家族で育ち、白子小学校を卒業しました。その後は高校まで都内の女子校で学び、学習院大学では経済学部で国際貿易や国際経済を専攻しました。社会人になってから税理士として税務・財務を長年担当してきました。

井上 / お父様は、南の「柴崎ブルーベリー農園」を経営してらっしゃるんですね。我が家もよく柴崎農園のブルーベリージャムを食べています。

しばさき / ありがとうございます(笑) なので、私にとって農業は幼い頃からとても身近な存在でした。

井上 / さて、そんなしばさきさんが和光市政に関心を持つようになったキッカケは何ですか。

しばさき / 平成26年から3年間、和光市監査委員として市の会計監査に携わりました。この時に生まれて以来住んでいた地元・和光市の事情について、主に財政を通して見つめることになり、和光市の財政状況や将来に対する関心、そして、今後どのように自分が関わっていけるかを考えるようになりました。

井上 / 今、コロナ禍で和光市の財政も非常に厳しさを増しています。そのような中で、しばさきさんのように財政に強い方が政治に携わることを是非とも期待したいです。

話は変わりますが、4月4日には東京都小平市で初の女性市長が誕生しました。また4月11日には兵庫県宝塚市で2代続けて女性市長が誕生しました。しかも宝塚の新市長は議員経験のない方が就任されています。こうした女性首長の活躍をどう考えますか?

しばさき / 現在、過去に比べて子育てや福祉・災害時対応など様々な分野でより多様な視点が必要になっていると感じます。その中で女性が首長を務めることで見落とされていた課題に丁寧に向き合うことが出来れば、女性も男性も「誰もが輝ける和光市をつくる」ことに繋がるのではないかと思います。

井上 / ありがとうございます。
最後に市民の皆さまに向けてメッセージをお願いします。

しばさき / 将来が不透明な時代を生きる私たちは、不透明だからという理由で諦めてしまうことがたくさんあるかもしれません。例えば、出産、子育てや進学などです。そういった「少し頑張れば手の届きそうなこと」を、希望する人皆が手にできるよう行政としてお手伝い出来る、そんな和光市にしたいと考えております。